国立研究開発法人科学技術振興機構
科学コミュニケーションセンター

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 27 年度採択企画
実施報告書

１．企画名

防災まちづくり支援ツール「ぼうさいＣＲＥＤＯマップ」の開発

２．提案機関名

学校法人　関西大学

３．提案企画の概要

人々の紐帯が弱いインナーシティにおいては、防災活動を持続的に取り組むことが困難となっている地区も多い。本提案では、こうした事態を克服する支援ツールとして、「ぼうさいＣＲＥＤＯマップ」の開発をおこなう。

まず、①ワークショップにおいて、地域内の多様な関係当事者が「地域防災で助力できること」をクレド（ラテン語で「約束」という意味）として表明しあい、次に、②各クレドを手作りマップ上に配置・整理する。その上で、③成果を地域全体に還元するため、印刷物を作成・配布したり、ラジオで放送したりする。また、④活動が単発で終わらぬよう、次年度以降、地域の小学校等で、「ぼうさいＣＲＥＤＯマップ」を更新する作業をおこなう。

４．企画の特徴

防災活動における科学技術コミュニケーションの充実化は、その重要性がとみに指摘されているにも関わらず、なかなか実現することが難しい根の深い問題である。専門家／研究者が、フィールドに乗り込んで、プログラムを押し付けるだけの関係性になってしまっては、かえって「ネガティブな逆効果」さえ生みかねない。関係性のシフトチェンジ―協働のありかたの模索―が望まれる。

本提案は、関係性構築の基盤となる「人と人」の付き合いを、実施主担当者がすでに１年半以上にわたり続けてきた（図 1、2 参照）点において、ワンショット・サーベイの陥穽に嵌る危険を回避できる。また、成果を広くＰＲする方途として、「ラジオ大阪（ＯＢＣ）」のラジオ放送『防災、守れる命』を通してリポートすることも計画している。こ

の２点から、research only for research に留まらず、ひとつの地域実践の波及効果を持続させ得る企画であることが特徴である。

５．総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

地図作りからカレンダー作りに変更したことで、当初計画にはない発展的な可能性が得られ、その着眼点はユニークであり、評価したい。

さらに、大人から子どもまで、なるべく多様な主体から CREDO を収集したこと、カレンダーによる防災を日常にビルトインできたことも評価できる。

総じて、当初期待したとおりの成果を得ているが、今後は、住民主体で CREDO を用いた防災活動を継続すること、またそこに科学技術コミュニケーションの要素をしっかり組み込むことに期待したい。また、活動の自立化のための方策、そのための資金や人材などの持続的活動のトライアルなども進めていただきたい。

６．実施者からＰＲ・感想について

ＣＲＥＤＯとは、ラテン語で「約束／信条」という意味です。「ぼうさいＣＲＥＤＯ」は、防災活動に関して、「津波の避難、率先しておこないます」とか、「しっかりと備蓄します」とか、「避難所が開設されたら、幼い子供たちの面倒をみてあげます」など、ささやかな決意を表明していただく、“小さな約束を集める”という取り組みです。今回は、さらにこの「ぼうさいＣＲＥＤＯ」を地区でたくさん集めて、月めくりのカレンダーを製作してみました。カレンダーを見つめると、みんなの「ＣＲＥＤＯ」を見つめることになります。他の人のＣＲＥＤＯに励まされたり、ちょっと真似してみようかなと思ったり、地域防災のすそ野を広げて底上げを図っていく、そうした効果を期待することもできそうです。堅苦しくて、閉塞しがちだった地域防災の取り組みに、「ぼうさいＣＲＥＤＯ」は、きっと新しい風を吹き込んでくれることでしょう。これまで防災に対して後ろ向きだった人、腰が引けていた人も、これくらいのちょっとしたアクションならば一緒にやってみようかなと笑顔で応えてくれるかもしれません。ぜひ、あなたのまちでも、あなたのグループでも、試してみてください。

ＣＲＥＤＯ意見とりまとめの様子

シンポジウムの様子

以上